

e-ビーフNEWS 北の牧場から

March 2020

十勝は春までいま一步

今冬は、あの厳しい寒さが、ほとんどなかったです。20℃以下になったのも一度だけ。15℃以下にもなりません。この異常な暖かさは全国的そうですね。野菜などの農作物含め相場下落、畜産物も鍋物が減り下がっているそうです。また雪はここに来て降ってきます。20cmドカ雪が数回襲ってきます。春先になるとこれが水分含んで重たい重たい。足腰腕が…

動物たちは活発です。キツネは牧場にやってきて、ツグミは牛のえさをついばみます。

農家も春の作業に向かって、準備が始まりました。今は次年度の耕作計画作成や打合せ等が活発にと言いたいところですが、止まっています。新型コロナの影響は北海道全体を暗雲のように覆い、雪が降りそうにドンヨリしています。1ヶ月前までは、それほど危機感を感じなかった事がここまでダメージ与えるとはちょっとショックですね。

モオ一間もなく春、芽生えるまでの耐える時かな。



活動のお知らせ

道総研 畜産試験場 飼養技術研修会検討中

2/21(金) 9:15~16:00……北農ビル19階 北海道畜産技術連盟、北海道酪農畜産協会、畜産関係新技術発表会

下記開催延期または中止

3/7(土) 13:00~17:30……酪農学園大学 学生ホール アニマルウェルフェア畜産協会

3/26(水)~28日(土)……京都大学農学部 日本畜産学会第127回大会

3/28(土)……京都大学 日本産肉研究会 第25回学術会議

NEWSばかり読み

- Jミルク 2020年度の需給見通し747万t1.5%減2/1:下げ止まるか
- フランス 雄ひよこの残虐殺処分禁止へ2/1:アニマルウェルフェアの思想が進む
- 厚労省 有効求人倍率が0.01%減 リーマン以来の10年ぶり減少2/1:経済実体か
- 日欧EPA 発効1年 チーズ豚肉の輸入が増2/1:思惑と違う動き
- 総務省統計局 19年東京圏流入15万人超過 一極集中変わらず2/1:独り勝ちか
- 農林水産省 JAS規格改正案提示 ゲノム編集作物は認めず2/1:
- 厚労省 外国人労働者165万人連続で増加 ベトナム急増40万人で2位2/1:
- 台湾 有機JAS認証農産物の同等性確保2/2:日本の基準がどこまで通じるか
- 国の種子法廃止で23道県が条例化に2/4:地方分権
- 農林水産省 自給率の表示を従来とは別に飼料反映なしを提示2/5:実態を表示すべき
- 家畜法改正 豚熱(豚コレラ)届出制違反で厳罰化2/5:刑罰だけでなくホロー体制を
- 政府 70歳まで企業就業機会確保の法案提出へ2/5:新たな働く環境を作るべき
- 農林水産省 和牛精液の不正利用で罰金3億円 知財保護の徹底2/6:
- 福岡中央市場 低温管理JAS取得 全国初認証2/7:拡がりは
- 市況キャベツ相場 価格低迷 例年の5割安 暖冬影響2/7:美味しいキャベツが食べられる
- 19年家計調査コメ・生鮮減畜産2.7% 減加工品2.7%伸び2/8:家庭消費構造の変化
- 農林大臣 対中牛肉輸出再開が新型コロナで延期2/8:牛肉もコロナに負けた

- 19年輸出(農産物)1兆円に届かず伸び率鈍化 牛肉は20%伸び2/8:
- 19年 民間卸コメ在庫が過去5年で最高水準2/12:みんな飯食わんと
- クボタ 古いトラクターに安全フレーム装着後付け開始2/12:安全第一
- 貿易統計 中国産輸入野菜停滞顕著で高騰の可能性2/12:頼りすぎ
- 畜産クラスター 中心低経営体数が減少2/12:大型経営のみの疑問点
- マック 9年ぶりに最高益を更新 スマホ受注回転数向上2/14:
- 豚鶏肉 暖冬で値下がり 鍋向けが低迷2/14:牛もだよ
- TPP・EPA施行1年 カナダ産豚肉がシェア増 米国・豪州落とす2/15:
- 大手食品企業 「サステナブルフードチェーン協」設立食品ロス削減に2/18:
- 交雑種の子牛取引減少 黒毛にシフト鮮明 値ごろ感で需要堅調2/19:
- 中国春節 旅客数50%減少新型コロナで売り上げ減2/20:動きは止まる
- 1月生乳生産が3か月連続で増産北海道2.7%増2/21:北海道に集約傾向
- 業務用向けの多収米の生産が拡大2/22:コメの多様性が進む
- ふるさと納税で 北海道九州 送料が重荷に2/22:経費負担はコストに
- 時短コンビニが急増 大都市に集中2/23:生活環境も変化
- 厚労省 新型コロナで感染拡大の移行期 対策基本方針2/24:
- 韓国 中国とのFTAでキムチの輸入拡大ハフサイ生産地衰退2/25:産地が無くなる
- 電気事業法改正で再エネ固定制から市場相場制へ2/26:合理性より方向性
- 新型コロナで経済活動が非常事態モードに イベント・禁止消費停滞2/27:
- 食肉相場が最低水準に増税・暖冬・新型コロナで2/28:影響はどこまで
- 1月求人倍率がピークアウトに2/29:転換期か
- 米国「植物肉(ビヨンドミート)」が昨対の3.4倍急増2/29:シェア増

東京直近NEWS (2/28 Shi-REPORT)

ホルス

相場は下げ基調。新型コロナ影響で外食、給食産業影響多大。冷凍アイテムからオーダー縮小しており、特に上位部位が在庫過多。今後についても、大きく改善する見込みは弱く3月中は相当販売が落ち込むと予測。4月以降についても不透明。

経産牛

経産牛相場は高値安定状況継続。出回り頭数にも増減あり相変わらず集荷に苦戦模様。新型コロナ影響で学校給食中止になっており、生乳生産の調整が必至か。引き材の在庫は慢性的に不足変わらず、顧客によって引合の強弱大きい。パーツについては、外食加工筋に向けてた原料の消費が落ち込み、オーダーキャンセル等が増加しており、産地の在庫が増。

左先生の畜産学研究NEWS

わが国は現在、新型コロナウイルス感染拡大が最大の関心事です。新型コロナウイルス感染による新型肺炎は世界中に拡散し、その影響は経済活動に及び株価の下落を招きました。日本政府は早い収束を図る対応をしましたが、国内各地に感染が拡大し、集会の中止や国内産業の停滞に追い込まれました。中国からの製品・部品供給停止や訪日観光客の減少などで日本のGDP低下が懸念されています。グローバル化による国際化が進むと感染症も拡散する副作用があることを思い知らされました。国際基準による貿易の自由化は経済合理性という説明ですが、地域の国民性と生産力を無視しては成り立たないのです。例えば牛肉生産では米、豪、カナダで認められている肥育用ホルモン剤の使用は日本では認められず、生産者は安全な牛・豚肉を生産しています。理由は多様ですが欧州、中国、ロシアも米国の牛肉輸入を禁止しています。地球環境が不安定な状況にあっては、食糧生産の環境を維持しながら地域の持続的農畜産業の発展を目指すことが大切です。e-ビーふNews75号の学術情報は以下の通りです。

1. 肉用牛研報#108(2020)

1) 2. 低蛋白質乾草給与時の黒毛和種の蛋白質充足 (糟谷広高他、道総研畜試)

CP8-8.4%、TDN53.3-60.6%のGDPチモシー主体の1・2番乾草を黒毛和種去勢牛に給与し、窒素出納試験から蛋白質充足を検討しました。その結果日本飼養標準のCP充足率は83%以下となり飽食時でも体蛋白の動員が認められました。

2) 6. 黒毛和種経産牛における肥育及び牛房あたり飼養頭数が枝肉成績に及ぼす影響 (武本智嗣他、全農中研)

7.7産の黒毛和種経産牛を飼養面積6.67m²/頭で1牛房あたり6頭と3頭で6ヶ月間肥育して枝肉成績を比較しました。牛房あたりの

飼養頭数制限は枝重、ロース芯面積、BMS値を改善する可能性が示されました。

3) 7. 褐毛和種去勢肥育牛における早期出荷が发育や枝肉成績に及ぼす影響 (江口敬子他、熊本畜研)

熊本県の褐毛和種肥育は26ヵ月齢出荷ですが300kg肥育開始、体重750kg、23ヵ月齢出荷の目標の可能性を検討しました。頭数が3頭ですが3等級の肉質でA-3の格付けを得ることが出来、23ヵ月肥育でも体重と肉質で目標を達成できる可能性が示されました。

4) 13. 現在の黒毛和種去勢肥育牛の正常发育曲線の推定 (広岡博之他、京大農)

去勢肥育牛の飼養標準策定のために先導短期肥育コンソーシアム参加機関の黒毛和種去勢肥育牛について10ヵ月齢から出荷までの体重データから正常发育曲線を推定しました。成熟体重の平均値は1015kg、成熟速度は0.088で2004年の发育曲線よりも黒毛和種去勢肥育牛は大型化し、成熟速度は低いことが示されました。

2. 畜産技術#777, 2020.2.

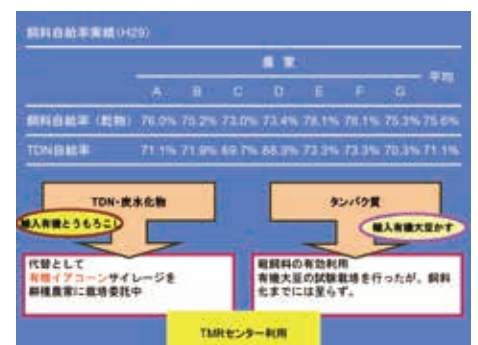
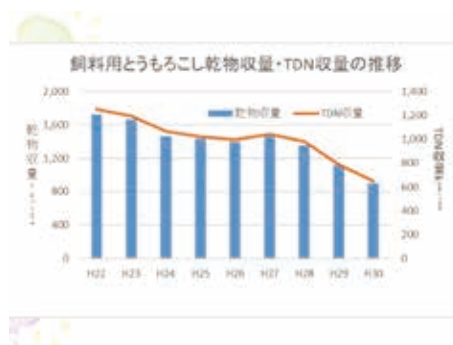
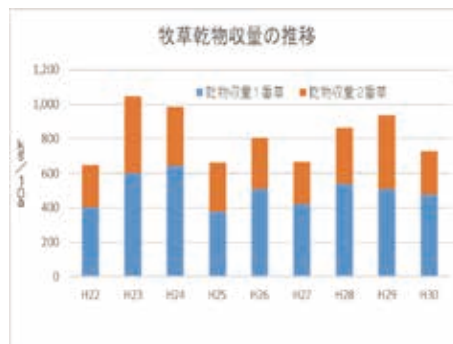
研究レポート1) 黒毛和種における全ゲノムリシーケンス解析を用いたオレイン酸含有率QTLに対する候補多型の探索 (川口笑岐、神戸大)

黒毛和種牛の優れた肉質は脂肪交雑など経済形質のQTL(量的形質遺伝子座)を明らかにして遺伝育種の精度を上げてきた改良の結果です。脂肪の質の改良でオレイン酸含量の増加が望まれており、その責任遺伝子多型の検出に全ゲノムリシーケンス解析を活用してC18:1の候補遺伝子内多型を3つのSNPsに絞り込みノックアウトマウスの結果からCYB5R4遺伝子がオレイン酸含量増加に有力な遺伝子と考えられました。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2019

話題提供1. 「有機畜産とICT活用 実践例」全5回シリーズ②

有機酪農研究会 会長 石川賢一氏



転載・再利用は固くお断りします